

子育てひとくちメモ18, 「子どもの成長と勇気づけ」

—児童期の特徴と勇気づけ2—

精神発達の面ではどうでしょうか。乳児期は記憶がありません。幼児期は記憶はあるけど予測ができない。児童期には、予測はできるようになります。まだ十分ではないんです。大人はくよくよと先のことを自動的に考えてしまいます。小学校低学年、中学年の子どもは、自分の力でどんどん予測してみるということをしません。「今その瞬間」を生きていますから。小学校低学年の子が将来設計して、35歳までにマイホーム建てようと思ったりしません。ですから、ときどき予測するように大人が勇気づけてあげないといけません。例えば、夜遅くまで起きているときは、「そうやって遅くまで起きていると、どうなると思いますか？」と聞いてあげます。「あした、起きられな—い」。ここまででいいんです。それからあとは子どもに決めてもらいます。「そんなら寝なさい」と言わなくていい。予測するのを手伝ってあげて、最終的には、子どもが自分の力で予測できるように育ててあげます。「わかっているんだったら、やりなさいよ」と言ってしまうと、そこから主導権争い・権力闘争になります。

予測させるだけ。それで十分に子どもたちは学んでいきます。「ああそうか、遅くまで起きてると朝起きられないな。宿題やらないとちょっとまずいな」と自分で考えるようになります。やらなかったらたぶん叱られる覚悟で学校へ行くでしょう。責任は自分にあるということを自然に学んでいきます。

(津山工業高校スクールカウンセラー 大森 浩)